

さ・東小研国語部会研究主題

確かな国語力を育てる指導と評価の在り方を求めて

～一人一人の考える力を伸ばす～

1 研究内容とのかかわり・・・キーワードは「つなぐ」

- (1) チャレンジ10分 1年間を通して(つないで)意欲を持続する工夫
学習の仕方を身に付け、家庭学習や他教科につなげる工夫
- (2) 小単元「気持ちのよい話し方をしよう」の取り組みから
友達と考えをつないで、一人一人の考えを深める工夫(習熟度別学習)
単元と単元をつないで児童の疑問を解決する工夫

2 実践の概要と子どもの反応

(1) チャレンジ10分について

方法

- ・小単元の度に行う活動である。
- ・小単元の2時間目より始め、その単元が終わるまで授業の最初10分間で行う。

その単元の要点を含む部分の音読練習
(第1ステージ)

要点の自分でまとめ
(第2ステージ)

6年生で習う漢字の先取り学習
(第3ステージ)

- ・ つまらずに読む
- ・ 大切な言葉にライン
- ・ はっきりと大きな声

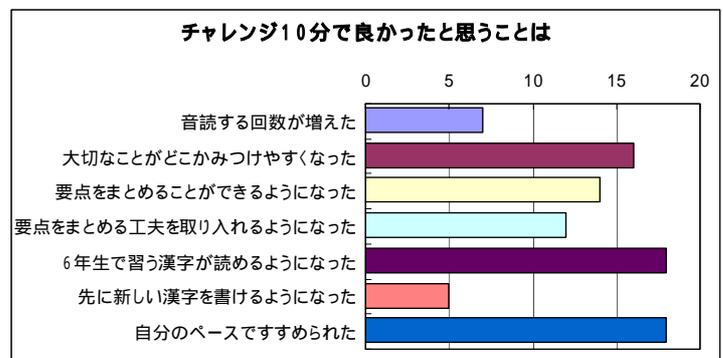
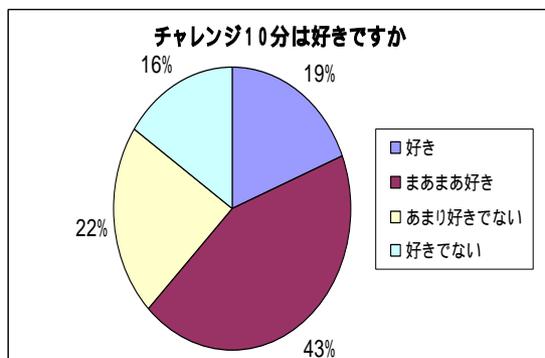
3つがそろわないと第2ステージへ進めない。

1時間目にまとめた要点や音読で大切だと思ったことをもとに自分でワークシートをまとめる。
要点が一つでも落ちていたら次に進めない。

早く進む子どもたちへの対応。6年生の新出漢字の練習。まずはすべて読めるように。そして書けるように。小テストが全部 なら次の小テストへ。

- ・ ワークシートを1冊のファイルに綴じていくことで、1年後には言語事項中心の大切なことをまとめたノートができあがることになる。

児童の感想から



- ・ 音読を何回もやったことで、上手に読めるようになった。
- ・ チャレンジ10分の中で一番音読が好きです。わけはドキドキして、うまく言えると楽しいからです。
- ・ 私はチャレンジ10分をやってみて、要点をまとめるのが少し得意になって良かったです。
- ・ 先に漢字を読めるようになって、漢字ドリルでやった時に、すいすいできるようになりました。だから

好きです。

- ・並んでいる時間が長いのがいやだ。
- ・要点をまとめるのが難しい。

成果と課題

- ・ずっとするのではなく、小单元になると取り組む活動なので、飽きがこないで取り組んでいる。
- ・「第1ステージクリア！」などゲーム感覚で楽しく取り組んでいる児童が多い。
- ・間違わずに読まないで合格できないということで、意欲的に多くの回数を読んでいた。読む声が大きくなった。
- ・「読み、ラインを引き、まとめる」が定着してきており、社会や理科など他の教科でも利用でき始めた。また、家庭学習（自主学習）ノートのまとめ方にも利用でき始めた。
- ・音読（第1ステージ）では、行列ができる場合が多い。ミニ先生の導入や要約と平行して行うなど工夫をする必要がある。
- ・要約をまとめる時の方法やルールの定着を図る。

(2) 6年 小单元「気持ちよい話し方をしよう」の取り組みから

目標 相手の状況や伝える内容に気を配り、その場に応じた言葉遣いを考えて会話する。

友達と考えをつないで、一人一人の考えを深める工夫（習熟度別学習）

授業の流れ

場面設定を理解する

- ・夜9時をすぎている。
- ・電話で明日の準備物を聞きたい。
- ・電話に出たのは、林さんのお父さんだった。

- 1 前置きの言葉を使う。
- 2 相手に負担をかけない言い方をする。
- 3 敬語を使う。
- 4 口調に気を付ける。

4つのポイントに気を付けながら一人一人で自分の考えを持つ。

教師の提示した悪い例と比べながら4つのポイントを押さえる。

4人グループで話し合う。良かった点などを交流し、グループから1つの意見を小黒板に書く。

学んだことを生かして、の考えを再考する。

各班が良いと思う話し方を発表し、全体で話し合う。

生活に生かせるように、友達と練習をする。

話し合いで学んだことを生かし、の考えを再考し、生活に生かせるように友達と練習をする。

基礎コース

発展コース

発展コース（20人）～話し合いから学ぶことを重視したコース～

ア) 話し合い活動の中での工夫

- ・自分の考えをもった後、4人グループで話し合った。話し手と聞き手に分かれ、両方の立場を経験した。
- ・4つの顔のカードを利用した。聞き手は、聞いてすぐにどう感じたのかを提示し、そう感じたわけを説明するのに使った。話し手は、にこにこカードをあげてもらえるように、4つのポイントに気をつけて発表するようになった。

ふつう むっとした
にこにこカード 困ったカード





(4つのカードを使った話し合い) (グループで意見のまとめ) (ロールプレイを取り入れて発表)

- ・ グループで意見を1つにまとめた後、全体で話し合いを行った。グループの中で話し合っているため、自信をもって意見を言える雰囲気となった。
- ・ ロールプレイを取り入れることで、楽しい雰囲気の中で話し合いが行われた。

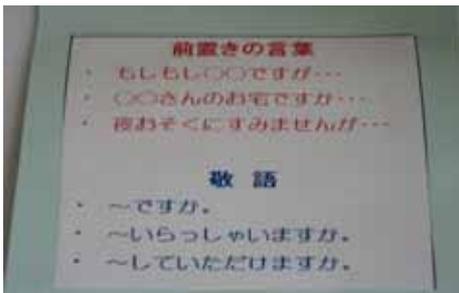
イ) 話し合いで学んだことを生かして練習する。

- ・ 友達と何回も練習することで、生活に生かせるようにした。

<基礎コース(12人)> ~個に配慮したコース~

ア) 良いものをみんなで吟味

4つのポイントが入っているかどうかをチョークで色分けしながら話し合った。その中で友達が考えた会話文のどこがよいのか、なぜよいのか、どこを直せばもっとよくなるのかを話し合いの中から見つけ出すことができていた。



イ) 支援カード

子どもたちが事前に書いた会話文を確認しておき、支援カードを作っておいた。書き直しに困っている子にカードを渡すことで、自分の会話文にはどれが足りてないのかを確認しながら書き直すことができていた。

ウ) 会話の回数を増やし、気持ちのよい会話文を何回も練習

電話を1人1台用意し、考え直した気持ちのよい会話文を回数多く練習することができた(多い子で5回)。実際に練習していく中で、「口調」や「相手に負担をかけない言い方」について、さらに話し合うことができた。



単元と単元をつないで児童の疑問を解決する工夫

子どもたちの中から敬語のことで疑問がでてきた。

疑問 : 「お聞きしたいのですが・・・」と「聞きたいのですが・・・」のどちらがよいのか。

意見A : 太郎君に聞きたいのだから、「聞きたいのですが・・・」がよい。

意見B : お父さんと話しているのだから、「お聞きしたいのですが・・・」がよい。



意見A

意見B

聞きたいことがあるのですが。
夜分遅くにすみません。林さんのお宅ですか。六年の〇ですが、花子さんはいらつしゃいますか。明日のことで

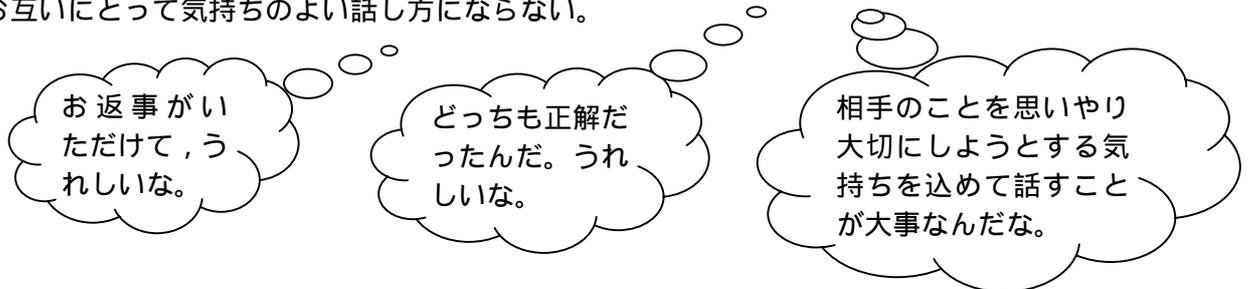
こんばんは。〇ですけど、こんな時間にすみません。林さんのお宅ですか。実は明日の図工の時間に用意するものを、お聞きしたいのですが、太郎君はいらつしゃいますか。

疑問を解決するために・・・

他の小単元「依頼の手紙を書こう」につなげて手紙を書く。

教科書会社の方から手紙が届く（内容抜粋）

- ・「聞きたいのですが」は丁寧語、「お聞きしたいのですが」は、尊敬語でどちらも敬語である。この場合どちらの言い方でも失礼はないので、どちらを使ってもよい。
- ・言葉遣いには、「たった一つの正解」はない。この場にふさわしいのはどんな言葉遣いなのか、常に考えていくことが大切である。
- ・いくら正しい敬語をつかっていても、そこに相手を思いやり大切にしようとする気持ちが込められていなければ、お互いにとって気持ちのよい話し方にならない。



成果と課題

いろいろな場面設定の中で話し合い、練習する中で4つのポイントに気を付けるとともに、次のような観点にも気を付けるようになった。

- ・相手との距離
- ・話の長さ（短めのよさ、荷物を持つタイミング）
- ・自分らしさ
- ・表情の大切さ（笑顔）
- ・敬語への意識の高まり

他の小単元とつなげることで意識がつながるとともに、理解が深まった。

いろいろな生活の場で、使っている児童が増えた。

・宿題の丸付けをしていると、「先生、お忙しいところすみませんが・・・。」など話しかけてくる。単元の中で学んだ場面設定以外でも、気持ちのよい会話ができるように、日常生活の中で気付いた時に紹介したり、ほめたりすることで、意識の継続化を図る必要がある。